

地域振興会議西ブロック合同会議開催案

① 今年度の開催時期、場所

8月頃（8/17～8/24）に開催し、その後、必要に応じて開催する。
気高町総合支所の2階大会議室、午後3時から2時間程度とする。
7月開催の支所ごとの地域振興会議で8月の日程を調整する。

② 事務局

毎年3地域持ち回りとし、気高、青谷、鹿野の順番で交代する。
（平成27年度：気高、平成28年度：青谷、平成29年度：鹿野）

③ 会議の会長、議長

ブロック会議の会長は事務局のある地域の会長とし、会議の議長となる。

④ 会議の運営

開催通知及び出欠取りまとめは、各支所で対応する。
会場準備は当日各担当者が行う。
会場レイアウトは、ロの字とする。
進行は、事務局の支所地域振興課長とする。

⑤ 議題及び報告

3 地域共通議題（案）

企業誘致の推進（要望書の検討）

気高道の駅（仮称）の整備について

青谷高校のあり方について

西いなば地域のイベント及び地域おこし協力隊員について

（フットパス全国大会（10/24-25））

全市的議題（案）

第10次総合計画

鳥取市都市計画マスタープランの見直し

（参考）根拠

鳥取市地域振興会議条例の第7条第2項第6号に基づき合同会議を開催する。

（抜粋）市長又は振興会議の会長が必要と認めるときは、各振興会議の意見の調整及び協議のため、各振興会議による合同の会議を開催することができる。

【青谷ようこそ市場】 開催要綱（案）

目 的：青谷ようこそまつりの一環として位置づけ、

- ① 青谷の賑わいの場の創出
- ② 生産者と消費者のつながり
- ③ 生産者の販路拡大、生産意欲の高揚
- ④ 様々な人や物が交わることによる新たな取り組み創出への期待を目的とする。

名 称：青谷ようこそ市場「あおいち」（通称）

開 催 日：7月～10月の毎月第1日曜日

時 間：午前10時～11時

場 所：夏泊漁港（7月・8月開催）/ようこそ館前（9月・10月開催）

出店対象：利益を得ることのみではなく、朝市全体の調和を第一に考える、目的に賛同いただける個人、団体に町内者に限定しない。

出店商品：出店できる商品

野菜・果物・穀類・パン・加工品（缶詰、瓶詰、乾物）・アイスクリーム・花木（その他は相談）・・・特徴、話題性のあるもの。

※保健所許可が必要な商品は事前に許可を得ること。

※鮮魚等夏泊朝市とのバッティング商品は避ける。

出店できない商品

宗教関連物品

その他の商品、飲食店の出店

事務局までご相談ください。

出店申込：開催日の3週間程度前までに、申込書（出展物、必要な備品等）商品内容等を検討後、決定通知の送付

出店準備：基本的には出店者でお願いします。

出店準備（会場設営）は、午前9時から行います。

テント等備品が必要な場合は出店依頼書に記載してください。

実施可否：荒天等により実施が困難な場合は、午前7時半頃に電話連絡します。

【青谷ようこそ市場】出店依頼書

氏名	
住所	
連絡先	
品名	
備品	<p>○テント ①持ち込み ②事務局依頼</p> <p>○長机： 台</p> <p>○椅子： 脚</p> <p>その他の備品等は各自</p> <p>・ガス・コンロ・ゴミ袋（各自始末）・ナイロン袋・容器・つり銭 など</p>
その他意見	

本出店依頼書写しの交付を以て、出店を決定したものとします。

平成 年 月 日

青谷町総合支所地域振興課

【青谷ようこそ市場】出店者 アンケート

出店いただき、ありがとうございます。

今後の参考に簡単なアンケートにお答えください。

出店希望	① 今後も出店したい ②出店を見合わせたい ③その他
場 所	① 現在の場所でよい ②駅前 ③ようこそ館前
時 間	① 現在の時間でよい ②午前中 ③1日
開 催 日	① 現在の開催日でよい ②月2回程度 ③毎週
売 場	① 現状でよい ②狭い
その他意見	

出店者名： _____

青谷ようこそ市場 配置図



青谷町版総合戦略 骨子(たたき台)

◆総合戦略策定の考え方

本市では平成16年11月の合併以来、新市の均衡ある発展をめざし、新市域における「地域振興プラン：平成23年度～平成27年度」「新市域振興ビジョン：平成26年度～平成35年度」を策定し、新市域の10年先を見据えた夢のある将来像を描き、行財政基盤の確立や地域振興の継続・発展、協働によるまちづくりの推進など、地域それぞれの特有の「個性」を活かしたまちづくりの方向性を示した。

合併後10年が経過し、再度、まちの現状や課題を整理しつつ、「地域振興プラン」で掲げた施策や事業、取り組みを検証すべき時に来ている。

このような中で、地方創生が打ち出され、全国各地でさまざまな取り組みがスタートし、今まさに、地域の課題を的確に捉え、地域の実情にあった具体的な取り組みを強力に進めることが求められている。

そのため、このたび、「青谷町版総合戦略」を地域や各種団体、本年度から新たに組織化された地域振興会議での議論を踏まえ策定する。

地域振興プランの検証

《取り組み方針》

- 農産物・海産物の販路拡大
- 因州和紙など地場産業の振興
- 移住定住の促進、住みやすい生活環境の整備



《具体的な取り組み》

- ① 地域振興特定予算関連
 - ・ 日中韓高校生シンポ
 - ・ 青谷ようこそまつりほか
 - ・ 青谷和紙工房管理
 - ・ 池田市交流
- ② 合併地域活性化推進事業
 - ・ 青谷地域活性化推進事業
- ③ 中山間地域対策事業
 - ・ 輝く中山間地域モデル事業
- ④ 過疎計画関連事業
 - ・ 交通対策、道路、橋梁事業
 - ・ 児童福祉施設関連事業
- ⑤ 第9次総合計画関連
 - ・ 地域生活拠点計画策定

《主な成果》

- ① 関連
 - ・ 全体事業を見直し継続実施
- ② 関連
 - ・ 6事業を継続実施
- ③ 関連
 - ・ 和紙関連、市街地との交流事業
- ④ 関連
 - ・ 絹見、引地地区有償運送実施
- ⑤ 関連
 - ・ 中郷小学校解体
 - ・ 地域生活拠点計画策定

鳥取市新市域振興ビジョン推進計画（青谷町総合支所）

10年先の将来像 ～だれもが住み続けたいまち・住んでみたい町 青谷町～

1 地域コミュニティの推進
活力のあるまちづくり

- ・ 地域生活拠点の整備
- ・ 地域活性化イベントの再構築
- ・ 地域コミュニティの充実
- ・ 青谷町内の保育園・小中等学校を核とした地域活性化
 - ①「卓球のまち青谷」の復活
 - ②国際交流事業の継続、拡大
 - ③保育園、小中高との連携強化

2 地域資源の有効活用による魅力あるまちづくり

- ・ 地場産業の育成
- ・ 歴史的資源を磨き上げ交流人口を増加

3 安全・安心なまちづくり

- ・ 自主防災組織の充実と連携
- ・ 避難行動要支援者支援制度への登録啓発
- ・ ひとり暮らしの高齢世帯へ「安心ホットライン」の設置啓発

1. まちの現状認識

◆人口減少……危機感

青谷町は鳥取市の新地域でも人口減少が顕著で平成16年と平成26年を比較すると、81.5%、△1,493人減少している。特に、0歳~64歳の人口減少が主で、65歳以上の高齢者人口は、ほとんど減少していない。人口減少の要因は若年層の町外流出であり、このまま人口移動が収束しなければ、日本創生会議が唱える消滅町村となる可能性は高い。

また、人口の再生産を中心的に担う20~39歳の女性人口の減少も著しい。

時点	総人口	0~14歳	15~64歳	65歳~	20~39歳 女性人口	世帯数
H16.12	8,069	977	4,687	2,405	654	2,484
H26.12	6,576	564	3,584	2,428	489	2,466
比較	△1,493	△413	△1,103	23	△165	△18

◆ひと・人材……意識改革

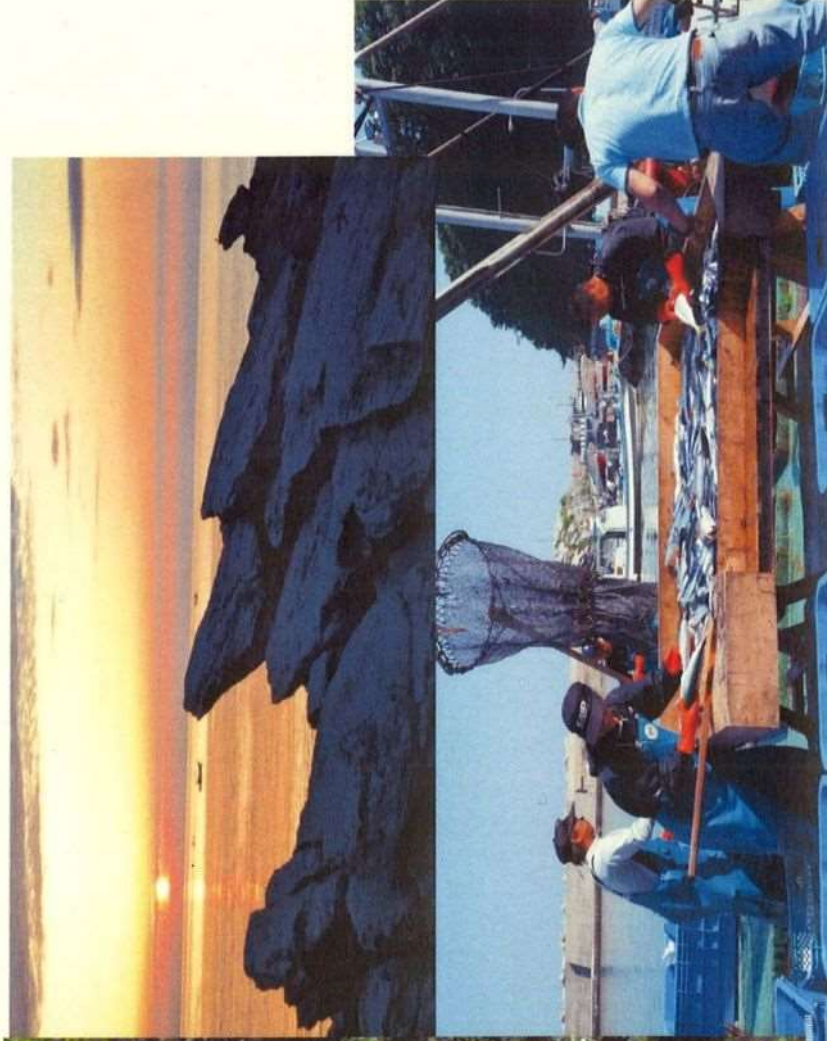
まちの賑わいを創生するには、人の動きが欠かせない。
多くの団体、グループなどがさまざまな活動を行っているが、まちの賑わいに繋がる大きな効果が見えない。

地域資源のすばらしさを再認識しつつ、自ら活動する人材・グループを発掘し・支援する。



◆地域資源……自覚

鳴り砂、長尾岬、不動滝をはじめとする「自然」、因州和紙の「産地」、二つの漁港から水揚げされる「鮮魚」、各地域で生産される「農産物」、弥生の遺跡「上寺地遺跡」、各地に伝わる「伝統・文化」など、すばらしい「地域資源」があるが、地元民の認識は薄い。



2. 青谷町総合戦略の基本的な考え方

上記、現状認識を踏まえ、市全体の基本目標及び「新市域地域振興ビジョン」「地域振興プラン」に沿った、青谷独自の基本目標を以下のとおりとする。

《市全体の基本目標》

- I 次世代の鳥取市を担う“ひとづくり”
- II 誰もが活躍できる“しごとづくり”
- III 賑わいにあられ安心して暮らせる“まちづくり”



《青谷町の基本目標》（※は振興ビジョンの目標）

- I 地域コミュニティを核とした“ひとづくり”
※地域コミュニティの推進、活力あるまちづくり
- II 地域資源を活かした“まちの魅力づくり”
※地域資源の有効活用による、魅力あるまちづくり
- III 誰もが生き活きと安全で安心して暮らせる“まちづくり”
※安全・安心なまちづくり

基本目標と施策例

I 地域コミュニティを核とした“ひとつづくり”

1. 教育の充実・郷土愛の醸成

- ①地域の宝(子供たち)は地域が育てる。
- ②青谷高等学校の魅力アップ
- ③次世代リーダーの発掘と支援
- ④団塊の世代による新たなまちづくり事業の支援

2. 地域コミュニティの強化

- ①地域活動への参加意識の高揚
- ②祭事や伝統文化の継承

基本目標と施策例

Ⅱ 地域資源を活かした“まちの活かづくり”

1. 経済再生・成長産業の創出
 - ① 農林漁業における後継者育成支援
 - ② 地域資源を活かした産業全般の底上げ
 - ③ 地域経済における人材還流と育成強化
2. 地域資源を活かした産業全般の底上げ
 - ① 空き家リノベーションによる産業化
 - ② 休日カフェの開業支援
 - ③ 鳥取森田跡地の活用
 - ④ ジオ関連ガイド、産業の発掘
3. 地域経済における人材還流と育成強化
 - ① 池田市・ダイキンアレスとの交流促進
 - ② 青谷町出身者の知的財産の活用

基本目標と施策例

Ⅲ 誰もが活き活きと安全で安心して暮らせる“まちづくり”

1. 結婚・出産・子育て支援
 - ① 子育て世代グループの活動支援
 - ② 独身の会の立ち上げ
2. 移住定住による人の好循環化
 - ① 空き家を活用した移住定住の促進
3. 住み良い環境づくり
 - ① 地域バスの運行
 - ② 買い物難民対策
 - ③ 地域生活拠点整備
 - ③ 自主防災組織の体制整備と連携強化

議論の進め方

地域振興ビジョンを踏まえつつ、新たな取り組みと重点事業の抜出し、優先順位を検討する。

めざすまちづくりの目標を決める

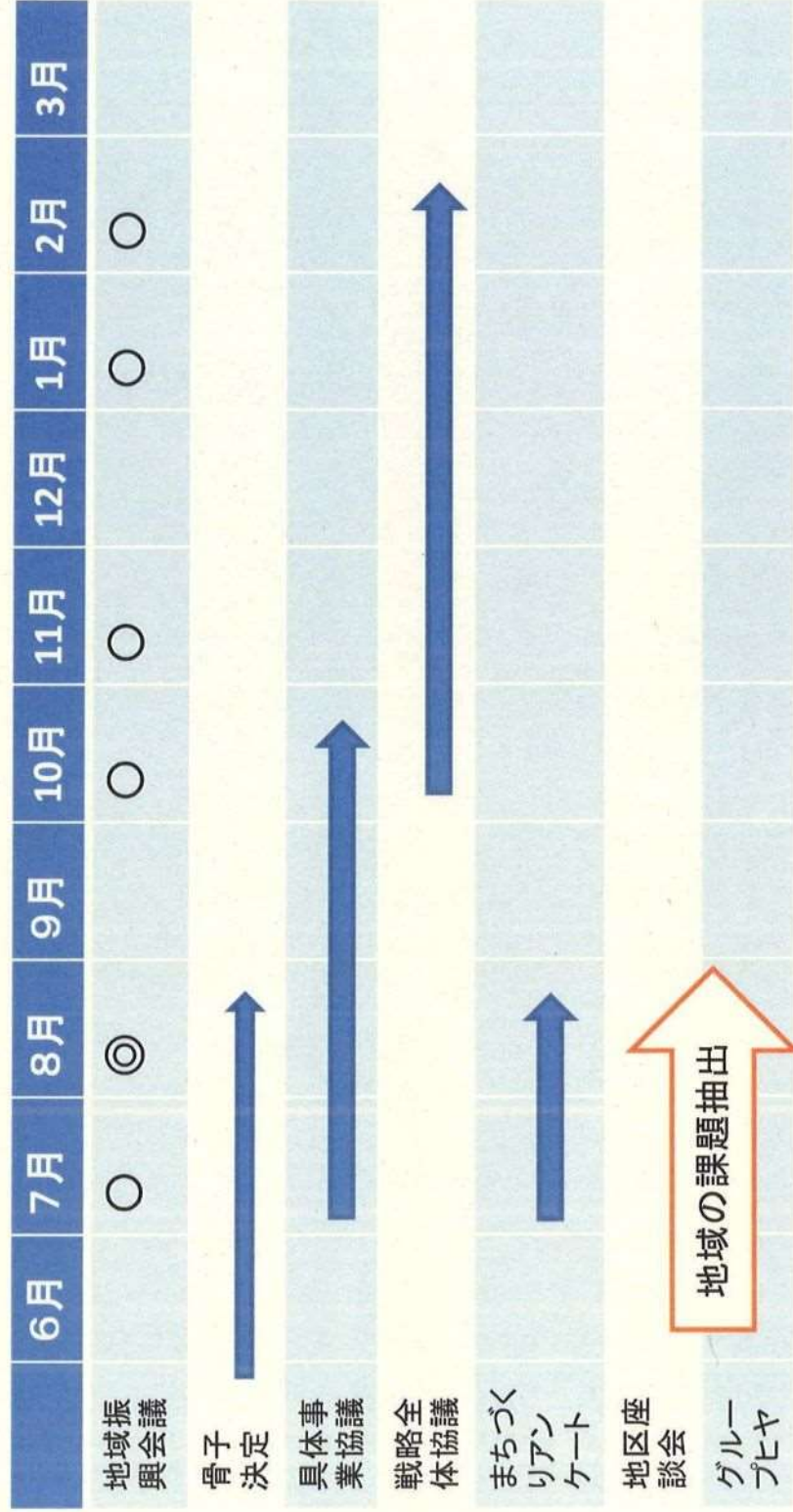
- ①ひとづくり
- ②仕事づくり
- ③まちづくり

手法・戦略を決める

- ①だれが、どんな方法で、いつ始めるか…
- ②目標達成につながるか…

具体的な事業・取り組みを決める

戦略策定のスケジュール



「鳥取市新地域振興ビジョン」推進計画

総合支所名		青谷町		3項目①				
項目名		地域コミュニティの増進、活力のあるまちづくり						
現状と課題等		住民の拠り所であり、地域活性化の拠点となる各地区公民館の役割を再構築し、機能強化を進めます。また、青谷高等学校は本町のにぎわいの創出や地域活性化の観点からも、青谷地域にとって必要な教育機関として認識を向上させ、地域を挙げて復活させる取り組みを進めます。						
項目名	事業概要	目標 【基本計画・施策】	26年度		推進期間	関係課 関係団体等		
			実施内容	担当課			予算額 (千円)	短期 ～29年度
地域コミュニティの増進、活力のあるまちづくり	1. 青谷地区を中心としたコンパクトなまちづくりを進め、憩いや賑わいの空間を創出する。 2. 全体的に人口が減少し高齢化が進む状況の中、各地区公民館は地域の特性を活かした事業に取り組んでいく。 3. 青谷高等学校は、特色のある取り組みや地域との繋がりを強化に取り組む。	地域生活拠点の整備 【生活基盤の充実】 【工業の振興】	・青谷賑わいの広場整備等 ・市民委員会設置	青谷町総合支所 都市企画課	35,900	○青谷賑わいの場整備等 ○JR駅前広場周辺整備等	都市企画課 市民委員会 都市企画課 市民委員会	
			立地可能な用地の把握	青谷町総合支所 企業立地・支援課		○企業誘致	○企業誘致	企業立地・支援課
			現状把握・見直し検討、関係機関等との協議	青谷町総合支所		○鳥取市西いなば地域振興ランドデザインとの連携 ○地域活性化イベントの再考・定着	○地域活性化イベントの再考・定着	青谷地域づくり連絡協議会 青谷町文化協議会 青谷ようこそまつり実行委員会
地域コミュニティの増進、活力のあるまちづくり		地域コミュニティの充実 【協働のまちづくりの推進】				○各地区のまちづくりリーダーの発掘 ○各地区のまちづくりリーダーの育成 ○各地区公民館周辺整備検討	協働推進 生涯学習課 各地区公民館 各地区まちづくり協議会	
			・青谷高等学校活性化に向けた組織の立ち上げ準備 ・国際交流の推進	青谷町総合支所		○青谷高等学校活性化に向けた組織立ち上げ ○「卓球のまち青谷」復活に向けて町民の意識改革・卓球教室・卓球大会の開催 ○各種イベント等への参画 ○留学生の受け入れ ○人材育成(通訳等) ○郷土愛を育む事業(青谷再発見、子どもガイド養成) ○国際交流イベントの推進	○郷土愛を育む事業(青谷再発見、子どもガイド養成) ○留学生の受け入れ ○人材育成(通訳等) ○郷土愛を育む事業(青谷再発見、子どもガイド養成) ○国際交流イベントの推進	企画調整課 学校教育課 青谷小学校 青谷中学校 青谷高等学校 すくすく保育園 鳥取市青谷国際交流協会

「鳥取市新地域振興ビジョン」推進計画

総合支所名		青谷町		3項目-②		
項目名		地域資源の有効活用による、魅力あるまちづくり				
現状と課題等		魅力あるまちづくりを推進するため、地場産業の育成、青谷上寺地遺跡の利活用、街並み等の修景整備、地域の歴史認識、地域の歴史認識、地域への愛着を深めるための情報板等を整備します。				
項目名	事業概要	目標 【基本計画・施策】	26年度			関係課 関係団体等
			実施内容	担当課	予算額 (千円)	
地域資源の有効活用による、魅力あるまちづくり	歴史的資源・自然的資源・農産物を含む地場産品の取組を進めることにより、中山間地域対策に重要であり、住民が誇れるまち・魅力あるまちをめざし交流人口の拡大を図る。	地場産業の育成 【農林水産業の振興】 【ビジットとっどりの展開】	夏泊朝市の実施・地域の活性化・交流人口の拡大 ジオ関連ガイドの養成 青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会の支援	青谷町総合支所 文化財課	194 2,000	経済・雇用戦略課 農業振興課 農業委員会事務局 経済・雇用戦略課 農業振興課 農業委員会事務局 経済・雇用戦略課 農業振興課 経済・雇用戦略課 農業振興課 農業委員会事務局 林務水産課 鳥取砂丘・ジオパーク推進課 まちづくり協議会 文化財課 青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会 都市企画課 観光コンベンション推進課 鳥取砂丘・ジオパーク推進課
		歴史的資源等を磨き上げ交流人口を増加 【文化財の保存・活用】 【ビジットとっどりの展開】	青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会の支援	文化財課	2,000	文化財課 青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会

「鳥取市新市域振興ビジョン」推進計画

総合支所名	青谷町	3項目-③
-------	-----	-------

安心・安全なまちづくり

自然災害から自己や家族、地域の人たちを守るため、自助、共助の理念に基づき、避難場所への迅速な避難と誘導など、自主防災組織の体制を充実し、地域の人たちが安心して暮らすことの出来るまちづくりを進めます。

現状と課題等

項目名	事業概要	目標 【基本計画・施策】	26年度		推進期間			関係課 関係団体等	
			実施内容	担当課	予算額 (千円)	短期 ~29年度	中期 ~31年度		長期 ~35年度
安心・安全なまちづくり	各集落の自助・共助による推進で「地域を自ら守る」取り組みを図る。	自主防災組織の充実と連携 【地域防災力の充実】	補助事業の活用 (危機管理課 H28年度まで)	青谷町総合支所	500	○自主防災組織の体制整備・連携	○自主防災組織の体制整備・連携	○自主防災組織の体制整備・連携	危機管理課 自主防災会連合会
		避難行動要保護者支援制度への登録啓発(新規登録、追加登録の促進) 【地域福祉力の向上】	未取組地区の解消(日置谷、中郷地区からの要望により説明会を開催)	青谷町総合支所		○制度の啓発及び地域との連携	○制度の啓発及び地域との連携	○制度の啓発及び地域との連携	危機管理課 障がい福祉課 各地区または各集落
		ひとり暮らしの高齢者世帯へ「安心ホットライン」設置啓発 【地域福祉力の向上】	事業の啓発(広報及び説明会の開催)	青谷町総合支所		○地域と連携しつつ、避難行動要支援制度と合わせて本事業の周知を図る。	○地域と連携しつつ、避難行動要支援制度と合わせて本事業の周知を図る。	○地域と連携しつつ、避難行動要支援制度と合わせて本事業の周知を図る。	危機管理課 高齢社会課 障がい福祉課 各地区または各集落

鳥取市人口ビジョン骨子（案）

1 人口の現状分析

- ☆鳥取市の総人口は2005年の201,740人をピークに人口は減少の一途をたどり2010年の国勢調査では197,449人と、すでに本格的な人口減少局面を迎えている。
- ☆1人の女性が一生に産む子どもの平均数である合計特殊出生率は2013年で1.55と鳥取県全体の水準を下回り、低出生率の状態を継続している。
- ☆社会的増減は2005年以降10年連続で、転出が転入を超過する社会減の状態を継続している。
- ☆近年の年齢階層別人口移動は大学進学時等を含む15～19歳をはじめ、就職時以降の20～24歳、25～29歳、30～34歳、35～39歳の各階級において転出超過となっている

2 将来人口の推計

- ☆国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計によれば、2010年の国勢調査時の197,449人の人口は、今後急速に減少を続け、2040年には156,135人（約21%減少）、2060年には119,998人（約39%減少）となる見込みである。
- ☆15～64歳の生産年齢人口はその構成比が2010年の63.1%から2040年には52.6%まで減少し、65歳以上の高齢者人口は23.2%から36.7%へと大幅に増加する見込みである。



3 人口の将来展望

《人口増加に向けた新たな目標設定》

- ☆合計特殊出生率1.55（2013年）が2020年に1.8（国目標より10年前倒し）に、2030年には2.07（人口置換値）に上昇するケースを仮定。
- ☆今後10年をかけ移動率を約0.5倍に逡減し、その後一定すると仮定。

※社人研・鳥取県推計準拠

目標	2040年：165,639人
人口	2060年：139,077人

《政策の基本目標》

- I 次世代の鳥取市を担う‘ひとづくり’
- II 誰もが活躍できる‘しごとづくり’
- III 賑わいにあふれ安心して暮らせる‘まちづくり’

「鳥取市総合戦略」に基づく政策の加速・前進

鳥取市将来推計人口の試算

1 社人研推計による鳥取市の将来推計人口

将来推計人口	2040年：156,135人 2060年：119,998人
--------	----------------------------------

※社人研：国立社会保障・人口問題研究所

2 鳥取市の将来推計人口のシミュレーション結果

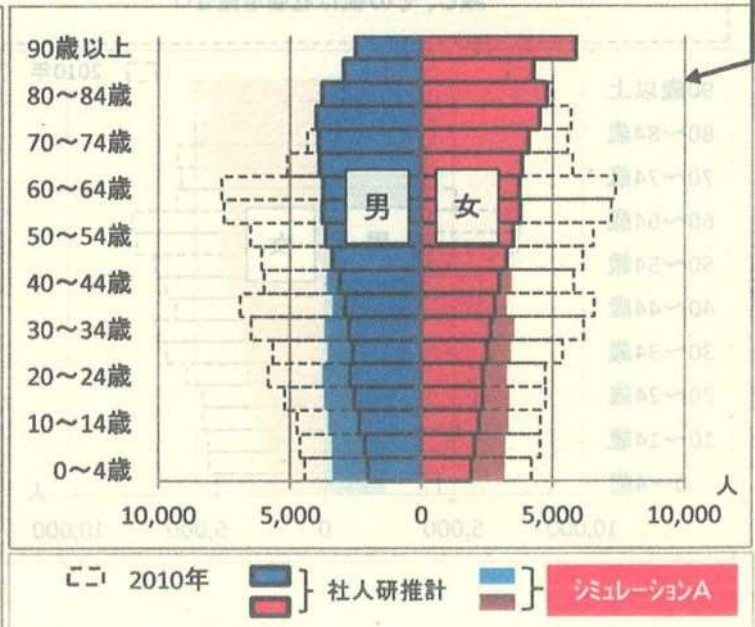
社人研推計をもとに、合計特殊出生率と社会移動の状況を変化させたシミュレーションを3パターン実施
なお、合計特殊出生率は最新の数値1.55（2013年）を用いて推計。
※鳥取県推計における基準人口は2013年10月1日現在の直近人口から起算したものである。

シミュレーションA	①③社人研 ②鳥取県推計準拠	2040年：165,639人 2060年：139,077人
【推計条件】 ①基準人口：2010年10月1日現在（国勢調査） ②合計特殊出生率：1.55（2013年数値）が2020年に1.8（希望値）に、2030年には2.07（人口置換値）に上昇すると仮定 ③社会移動の状況：今後10年をかけて移動率を約0.5倍に遡減し、その後後は一定		
シミュレーションB	①社人研 ②市仮定値 ③鳥取県推計準拠	2040年：163,014人 2060年：133,568人
【推計条件】 ①基準人口：2010年10月1日現在（国勢調査） ②合計特殊出生率：1.55（2013年数値）が今後も続くと仮定 ③社会移動の状況：今後10年をかけて移動率を約0.5倍に遡減し、その後は社会増減ゼロ		
シミュレーションC	①社人研 ②③鳥取県推計準拠	2040年：171,976人 2060年：153,594人
【推計条件】 ①基準人口：2010年10月1日現在（国勢調査） ②合計特殊出生率：1.55（2013年数値）が2020年に1.8（希望値）に、2030年には2.07（人口置換値）に上昇すると仮定 ③社会移動の状況：今後10年をかけて移動率を約0.5倍に遡減し、その後は社会増減ゼロ		

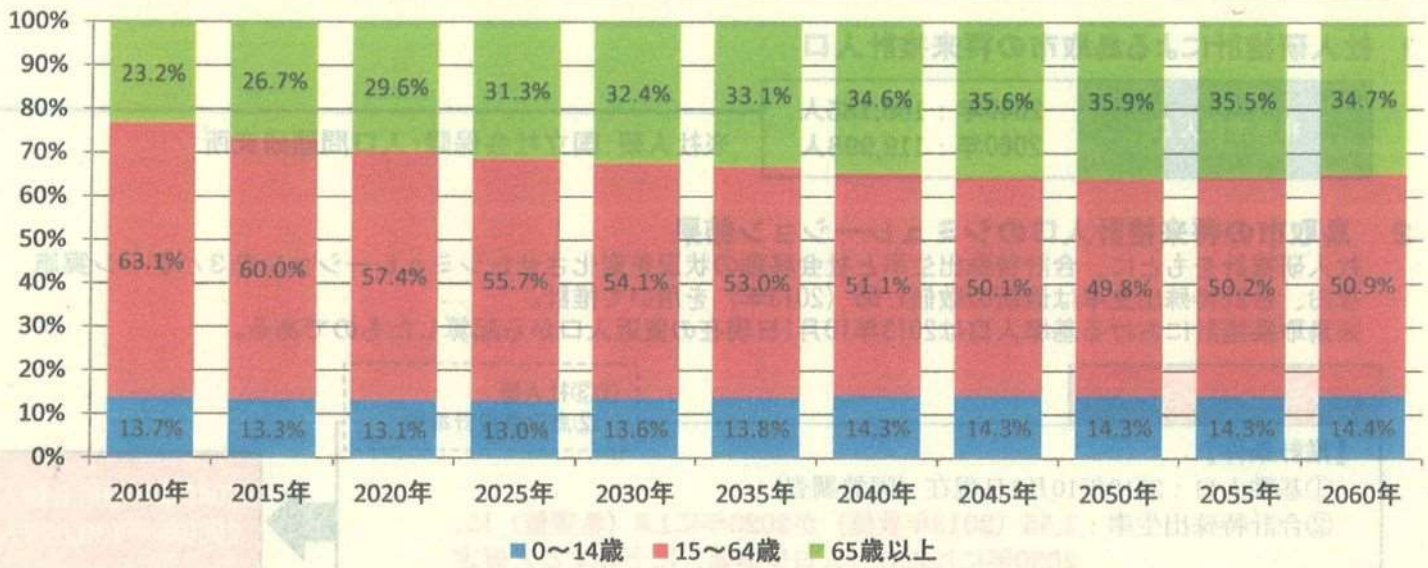
《総人口の推移》



《2060年の人口構成》



＜参考：シミュレーションAによる年齢3区分別人口の推移＞



(単位:人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
0~14歳	27,249	25,494	24,552	23,666	24,069	23,781	23,693	22,729	21,746	20,790	20,011
15歳から64歳	124,525	115,338	107,694	101,575	95,878	91,162	84,577	79,569	75,836	73,032	70,741
65歳以上	45,675	51,398	55,473	57,111	57,434	56,935	57,370	56,608	54,592	51,670	48,325
合計	197,449	192,230	187,719	182,352	177,382	171,878	165,639	158,907	152,175	145,492	139,077

＜2060年の人口構成＞

＜シミュレーションB＞ 総人口133,568人

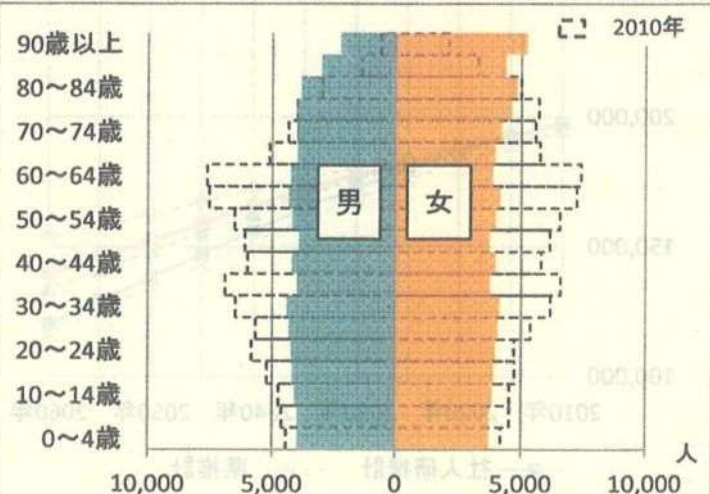
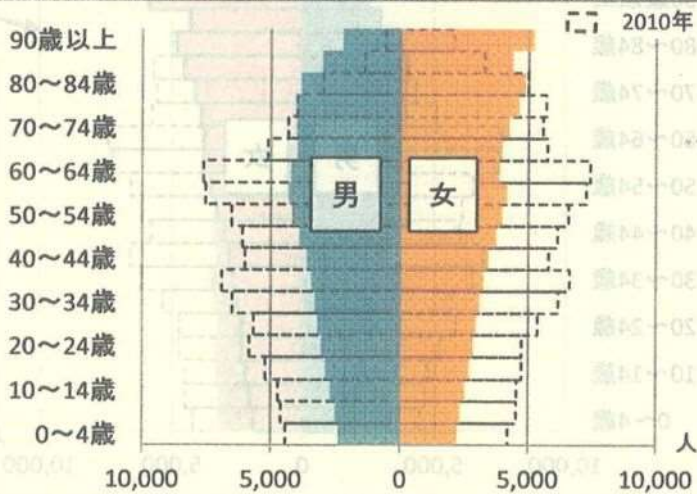
＜シミュレーションC＞ 総人口153,594人

◇合計特殊出生率:1.55(2013年数値)が今後も続くと仮定

◇社会移動の状況:今後10年かけて移動率を約0.5倍に運減し、その後は社会増減ゼロ

◇合計特殊出生率:1.55(2013年数値)が2020年に1.8(希望値)に、2030年には2.07(人口置換値)に上昇すると仮定

◇社会移動の状況:今後10年かけて移動率を約0.5倍に運減し、その後は社会増減ゼロ



鳥取市総合戦略 骨子(案)

1 基本的視点

本格的な人口減少時代が到来する中で、地域の特色や地域資源を活用し、将来を担う‘ひとづくり’や誰もが幅広く活躍できる‘しごとづくり’、安心して暮らし続けることができる明るい‘まちづくり’など『いつまでも暮らしたい、誰もが暮らしたくなる、自信と誇り・夢と希望に満ちた鳥取市』の実現に向けた戦略を総合的に進めます。

2 構成

本市の他にはない優位性(強み)や特性を活かし、次の3分野を基本目標に設定します。

I 次世代の鳥取市を担う‘ひとづくり’

II 誰もが活躍できる‘しごとづくり’

III 賑わいにあふれ安心して暮らせる‘まちづくり’

3 基本目標と施策例

I 次世代の鳥取市を担う‘ひとづくり’

将来を担う若い世代を中心とした人材育成は本市の更なる飛躍と発展の原動力となります。

郷土を愛し、地域の活性化に寄与する次世代をリードする人材の育成、確保を進めます。

【具体的な施策例】

①教育の充実・郷土愛の醸成

- 家庭・地域・学校の連携によるぬくもりのある教育環境の創出と郷土愛の醸成
- 特有の自然・文化等を身近に楽しむ郷土教育の充実
- 親子を支える地域ネットワークの強化
- 鳥取環境大学等と連携した若者の地元進学・就職の充実

②結婚・出産・子育て支援

- 「すこい鳥取市」婚活サポートセンターなど新たな出会いの支援と情報発信
- 待機児童ゼロ継続に向けた保育サービスの充実
- 保育料の軽減など経済的負担の軽減
- 子育て中の女性に対する就職支援の実施
- ワーク・ライフ・バランスの促進と取組の周知

II 誰もが活躍できる‘しごとづくり’

本市の経済再生と雇用の創出を図るためには人口減少等に左右されない地域の特性を活かした産業基盤の確立が求められます。

地元産業の底上げと地域経済の活性化を図り、誰もが幅広く活躍できる‘しごとづくり’を進めます。

【具体的な施策例】

①経済再生・成長産業の創出

- 成長分野における中核企業となり得る企業への支援
- 地元経済の発展と適正な産業構造の構築に向けた戦略的な企業誘致の推進
- 産学官連携による新産業の創出とネットワークの強化

②地域資源を活用した産業全般の底上げ

- 地域特有の観光資源、農林水産物等を活用した新商品の開発、ブランド化
- 6次産業化の取組強化と農工商等他分野との連携
- 環日本海諸国との経済交流促進と地元企業支援

③地域経済における人材還流と育成強化

- 新規創業やリターン・後継者育成等に対するキャリア教育の経営支援
- 高齢者の就労支援や技能の活用
- 農業担い手確保など新規就農のための各種支援
- 留学生受入支援による企業の国際化や競争力強化

III 賑わいにあふれ安心して暮らせる‘まちづくり’

山陰海岸ジオパークをはじめとする豊かな自然、その自然が育む農林水産物や地域に根差した文化など独自性の高い魅力を活かし、若者に魅力ある、人が賑わい、安心して暮らせるまちづくりを進めます。

【具体的な施策例】

①独自産業を活かした交流推進

- 「砂像のまち鳥取市」等独自ブランドを活かした滞在型観光の推進と交流人口の拡大
- 特色ある農林水産物、加工品の情報発信及び新たな地域ブランドの育成・販路拡大
- 文化芸術を活かした体験交流や活動支援

②移住定住による人の好循環化

- 県外の若者・中高年の呼び込み・戦略的な情報提供と相談窓口におけるマッチング支援
- 空き家情報の把握等定住創出に向けた環境整備
- 地域住民や団体等による移住定住者を支えるネットワークづくり

③住み良い環境づくり

- 中山間地域での特色を活かした地域生活の再生と買い物支援など多機能な拠点創出
- 路線バス等地域公共交通の利用促進
- 中心市街地活性化の賑わい創出支援と空き店舗の活用による新たな拠点整備
- 定住自立圏等周辺の自治体や県外自治体との地域間連携の推進による地域の活性化

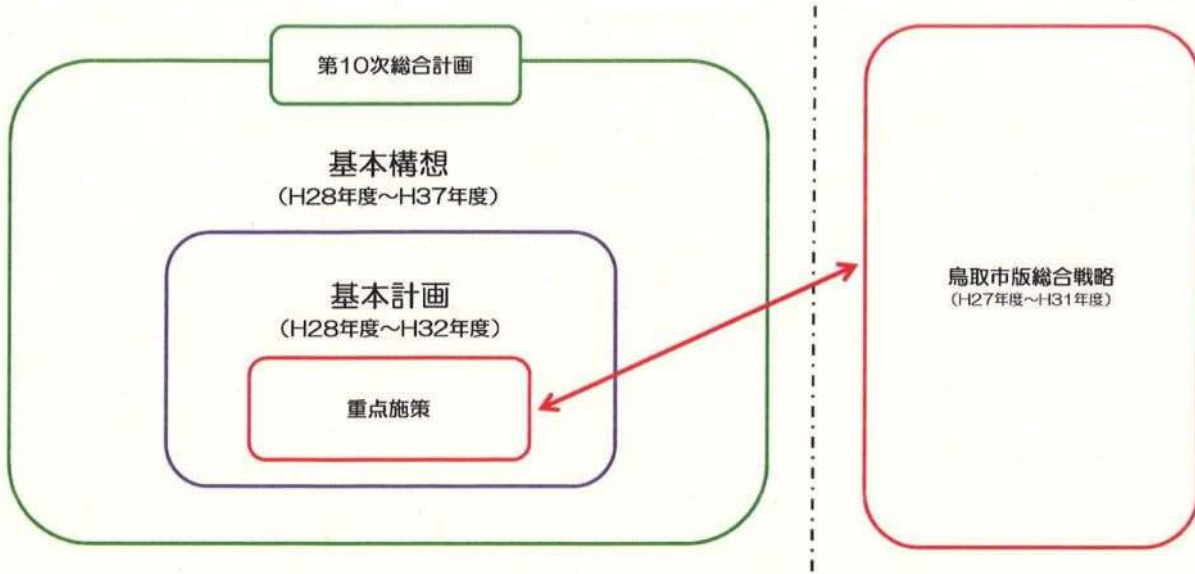
第10次鳥取市総合計画及び鳥取市総合戦略策定スケジュール(案)

資料3

年度	H27年度												H28年度																								
	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
第10次総合計画	基本構想	骨子案			策定作業			提案・案作成						パブリックコメント			答申案作成			答申			議案作成			議案提出・議決			施行								
	基本計画				策定作業			素案			提案・案						答申案作成			答申			議案作成			議案提出・議決											
鳥取市総合戦略	人口ビジョン	○人口現状分析 ○人口推計			策定作業			市民意識調査等助案			素案			○人口ビジョン策定																							
	総合戦略	骨子案			策定作業			中間まとめ			○総合戦略策定																										
市議会	定例会																																				
	全員協議会							○策定状況等報告						○総合戦略・人口ビジョン報告 ○10次総策定状況等報告						○10次総策定状況等報告						○10次総報告											
	総務企画委員会							○策定状況等報告						○総合戦略・人口ビジョン報告 ○10次総策定状況等報告						○10次総策定状況等報告						○10次総報告											
市民参画事業等	総合企画委員会				○第3回(5/1)						○第4回(7月中旬)			○第5回(8月中旬)						○第6回(11月中旬)			答申														
					○総合戦略骨子案について ○人口ビジョン骨子案について			○総合戦略中間報告			○総合戦略・人口ビジョン報告 ○基本構想・基本計画等			○10次総答申案審議																							
	地域振興会議				○地域振興会議			○地域振興会議						○地域振興会議			○地域振興会議																				
	地域づくり懇談会							7月			11月																										
	地方創生フォーラム																○開催(11月下旬予定)																				
	市民WG				適宜開催																																
	関係機関・団体等				商工会議所青年部、 大学生等意見集約																																
その他意見等				インターネットモニター、移住 定住者アンケート等意見集約																																	
庁内策定会議	賑わいのある「すごい鳥取市」創生本部会議	○第1回(4/27)						第2回(7月中旬)			○第3回(8月中旬)			○第4回(10月上旬)			○第5回(11月中旬)																				
		○総合戦略骨子案について ○人口ビジョン骨子案について			○総合戦略中間報告			○総合戦略・人口ビジョン報告			○10次総と総合戦略のすり合わせ			○10次総答申案審議																							
庁内部会等	総合計画・戦略PT(課長レベル)	○総合戦略について ○人口ビジョンについて ○10次総について																																			
	若者定住・安心子育て部会及びPT																																				
	経済再生・雇用創造部会及びPT																																				
H28予算							○サマーレビュー			○当初予算説明会(10月上旬)			○当初予算要求締切(11月下旬)																								

○『第10次鳥取市総合計画』と『鳥取市版総合戦略』について

資料4



※ 総合戦略は第10次総合計画基本計画の重点施策とする。KPI(重要業績評価指標)はH31(2019)年度までを検証期間とする。

○『第10次鳥取市総合計画』と『鳥取市版総合戦略』の計画期間について

年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度	H37年度	
	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	
鳥取市総合計画			基本構想(H28~H37)										
		10次総策定	11次総策定					12次総策定					
		基本計画(H28~H32)											
鳥取市版総合戦略		策定	検証・策定										
		総合戦略(H27~H31)											

※ 総合戦略最終年度H31(2019)年度の検証を踏まえ、H32(2020)年度へ繋げていく。